

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	帝京大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	テイキョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ I・II
	学部・研究科等名	学修・支援研究センター
	担当教職員名・役職	キャリアサポートセンター センター長兼学修・支援研究センター 田口 仁学修・支援研究センター 非常勤講師 熊澤 匠/田村 隼人 キャリアサポートセンター 後藤 修治/金塚 美穂/森本 紗代
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	117
	受入企業等数	195
	受入企業等名	https://www.teikyo-
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1.営業同行をしてお客様とのコミュニケーションの取り方や社内の仕事の流れ 業界について学び就職活動に活かせる内容を実施2.業界や企業が抱える課題を発見し、解決する「課題解決型」のインターンシップも実施	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している,2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年生を対象に、【インターンシップ I・II】計30回の正規キャリア教育科目として実施実習は夏期休暇期間中に5日以上行い、履修学生は全員参加することができる	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等へ赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	15回の授業の中で、以下を中心に学びを深めています。本学担当教員が①～④をグループ学習形式を中心に15回の授業回数を実施。 ①インターンシップに対する目的意識の明確化②挨拶・マナー等の基礎③職場での課題対応の仕方④実習受入企業担当者を引き、企業が「求める人材」を理解する⑤実習前に決意表明を行うことで自覚と責任・目標意識を醸成する
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	15回の授業の中で、以下を中心に学びを深めています。特に第5回目で実施する「インターンシップ成果発表会」では、企業担当者・実習視察教員・レポート指導教員、学生を一同に会して成果発表を一人3分間で実施①社会人・職業人として働くための心構えやスキルを身に付ける②卒業後のキャリアデザインの言語化③ビジネスや就職活動に必要な書類を知り、作成
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生の所属しているゼミの教員を中心に、実習中～実習終了後に企業訪問を行い、学生の様子や報告書の作成指導の実施また必要に応じて、職員も積極的に指導に関与している
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	成果報告書を作成し、インターンシップ全体の振り返りを実施事前事後に社会人基礎力を用いて、客観的に実習参加前後の違いを把握受入企業担当者により勤務評価表による実習中の評価
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	最低5日以上の実習を実施
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業受入担当者には、本学のWEBシステムを活用し、事前に実習プログラムの入力を必須としているまた大学担当者と企業受入担当者で、密に連絡を取り合い実践的な内容を盛り込み、実習の充実化に励んでいる
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.e-campus.gr.jp/syllabus/kanri/sy_search_list.html?fullcd=&classname=%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%83%E3%83%97&classname_condition=and&keyword=&keyword_condition=and&teacher_name=&teacher_name_condition=and
問い合わせ先	大学等名	帝京大学
	担当部署名	キャリアサポートセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	後藤 修治
	電話番号	042-678-3307
	メールアドレス	s-goto@teikyo-u.ac.jp